

第1学年2組国語科学習指導案

授業者 浅井 初音

1 単元名 「空の詩三編」～詩の情景を想像し、詩の魅力を説明しよう～（光村図書1年）

2 目標

- (1)・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語句を豊かにすることができる。
また、比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。

(知識及び技能)

- (2) 文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

(思考力、判断力、表現力等)

- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。

(学びに向かう力、人間性等)

3 指導にあたって

(1) 単元について

『空の詩三篇』は、谷川俊太郎の散文と、山村暮鳥作『雲』、吉田加南子作『朝』、木坂涼作『魚と空』の三編の詩から構成されている。本教材は、詩の情景を想像し、表現の効果について考えながら感じたことを言語化する力を養う教材として優れている。谷川俊太郎の散文では、「言葉で言えない音楽のような何か、美しい日本語が生み出した何か、そんな何かを感じる自分を大切にしたい。」と述べられている。これは、詩に使われている言葉の伝え方や、言葉そのものから何かを感じてほしいという言葉である。

また、本教材に掲載されている詩は全て「空」の情景が描かれている。山村暮鳥作『雲』は、「ゆうゆうと」「のんきそう」といった擬人法によって、ゆっくりと流れていく雲の姿が描写される。加えて、「おうい」「ゆくんだ」「ゆくんか」というようなどこか間延びした雲への呼びかけによって、より一層のんびりとした雰囲気を作り出されている。吉田加南子作『朝』は、「遠い空」ではなく「空の遠さ」と表現されていることにより、非日常のような感覚を生み出している。また、「一」が使われることによって、空の遠さが強調される。木坂涼作『魚と空』は、1行が短い言葉で構成されており、魚が鳥に捕らえられるという緊迫した場面を描いている。この詩には、体言止めや擬人法、倒置法といった多くの表現技法が用いられている。これらのことから、本教材は、詩の情景を想像し、表現の効果について考えながら感じたことを言語化する力を養う教材として優れている。

(2) 生徒について

(省略)

(3) 指導について

本単元を通して、詩の情景を想像し、表現の効果について考えながら感じたことを言語化する力をつけさせたい。

〈視点1「主体的・協働的に学びたいくなる探究課題の設定」について〉

- ・生徒が、詩の魅力を PowerPoint で紹介するという学習のゴールへの見通しを持つことができるように、教師の方からモデルを提示する。その際、学習で与える観点についてスライドを用い、説明を行う。
- ・3つの詩から生徒自身が最も好きだと思ったものについて、なぜ好きだと思ったのかについて考えさせる。生徒自身が課題を選ぶことで、主体的に学習に取り組めるようになるのではないかと

考える。また、その時にいくつかの観点を設定することにより、詩の魅力を言語化しやすいようにする。

〈視点2「思考・判断・表現する場面の設定」について〉

- ・生徒が学習用語を用いて詩の魅力を言語化できるようにするために、「さまざまな表現技法」で扱った学習内容の振り返りを行う。この学習により、生徒は表現技法とその効果について振り返り、学習したことを活かしながら、取り組めるようになると考える。

4 指導と評価の計画（全6時間 本時4時間目）

〈中1〉・空の詩三篇 重点…○ 記録（評価）…◎					
時数	学習内容	知技	思判表	態度	評価基準（観点）
1	・学習の見通しを持つ。 ・朗読CDを聞く。 ・ワークブックを使用し、詩の内容を捉える。	○			・三編の詩の大まかな内容を捉えることができる。（知・技）
2	・使われている言葉や表現技法に着目し、情景をとらえる。 ・様々な表現技法を整理する。 ・それぞれの詩に使われている表現技法を整理し、その効果について話し合う。	○	○		・表現技法について理解できる。（知・技） ・詩の中から表現技法を見つけることができる。（知・技） ・その詩に使われている表現技法の効果について考えることができる。（思・判・表） （自己評価シート、ワークシート）
1 （本時）	・3編の詩の中から好きな詩を1つ選び、詩の魅力を言語化する。		○	○	・自身が選んだ詩の魅力について、根拠をあげながら考えられる。（思・判・表）（ワークシート）
1	・好きな詩の魅力を紹介するスライドを作る。 ・自身が選んだ詩の良さを説明するには、どの観点をういれればいいのか考える。		◎	○	・根拠を明確にしながら情景描写を想像し、魅力を説明することができている。（思・判・表） ◎A 根拠を明確にして具体的な情景を想像し、観点を基に魅力を説明することができている。 ◎B 根拠を明確にして情景描写を想像し、詩の魅力を説明することができている。 ◎C 根拠を抜き出さずに意見を述べている。 （PowerPointのスライド）
1	・好きな詩の魅力を発表する。			○	・班の生徒の発表からそれぞれの詩の良さについて感想を交流しようとしている。（態度） （自己評価シート）

5 本時の指導

- (1) 目標・自身が選んだ詩の魅力について観点をもとに根拠を述べながら考えられている。
(思・判・表)

(2) 指導過程

学習活動 【学習形態】 発問 (○)、指示 (△)	予想される生徒の反応 (●)、教師の手立て (・)、 評価 (◎)
1課題をつかむ。【全体】 ○自分が好きだと思った詩はどのような詩ですか。○な詩という形で表しましょう。	●『雲』 ・のんきな詩 ・気持ちよさそうな詩 ●『朝』 ・さわやかな詩 ●『魚と空』 ・緊張感のある詩
〔課題〕自分が1番好きだと思った詩の魅力について根拠を挙げながら説明しよう。	
2自身が選んだ詩の魅力をいくつかの観点から1つ選んで、良さを言語化する。 【個→小集団→個】 △3つの詩から一番魅力的だと思った詩を1つ選び、説明しよう。 △同じ詩を選んだ人同士で、意見を交流しよう。 ○自身が好きだと思った詩の魅力は何か。根拠を挙げて説明しよう。	・途中で同じ詩を選んだ人同士でグループを作り、選んだ観点と、その詩の魅力について話し合いをする。その際、グループに、詩を印刷したものを配布し、生徒が意見を書き込めるようにする。 ・他の生徒の意見を積極的に取り入れるよう言葉かけを行う。 ・選んだ詩と観点については、「その詩のどのようなところに魅力を感じましたか。」と聞き、具体的に説明させ、根拠をあげられるようにする。 ●『雲』は、「のんきそうじゃないか」と雲に擬人法を使っている。この言葉から、雲がほとんど動いていないのではないかといいぐらいうっくり動いている情景が想像できていいと思う。(●『朝』は「遠い空」ではなく、「空の遠さ」となっている。あまり聞かない言葉が使われていて、そこが作者が見た普段よりもずっと空が高いところにあるという感動を表していると思う。 ●『魚と空』は、一連目が短い言葉の連続で成り立っている。このことによって、鳥が魚を捕りに海に潜る一瞬の出来事のスピード感を感じられるようになっている。 ◎自身が選んだ詩の魅力について、根拠を挙げながら説明できる。(思・判・表)
4振自己評価カードを書く。〔個〕 △振り返りシートにこの学習の振り返りを記入しましょう。	

6 事後研究会

助言者 山形市教育委員会 深瀬慶太指導主事

△つけたい力を明確に示す必要があった。単元のねらいが曖昧であった。

△今日から次の学習への広がりが見えるとよかった。最終的なゴールは何なのか。主としてつけさせたい力はなんであったのか。

△生徒が学習したことを深める時間が欲しかった。授業の最初の発問の段階で他者の視点を取り入

れてもよかったかもしれない。

△グループ活動をもっと必要感のあるものにする。グループ活動をすることで生徒は何をできるようになるのか。活動中に共有すべきなのは、自分の意見の根拠か自分が感じた魅力の部分か。観点を明確にする必要がある。

△自分が感じたことだけではなく、分からなかったことについて書かせてもいろいろな意見がでたのかもしれない。

○本時の流れの見通しをもたせて示しているのは、よかった。